

令和5年度 文京区障害者地域自立支援協議会  
第2回権利擁護専門部会要点録

日時 令和5年12月11日(月) 午前10時～正午  
場所 文京区民センター2A会議室

出席者：

協議会会長 東洋大学福祉社会デザイン学部社会福祉学科教授 高山直樹  
親会委員 文京槐の会は～と・ピア2施設長 松下功一  
委員 文京区障害者就労支援センター主任 皆川譲、  
文京区障害者基幹相談支援センター副所長 美濃口和之、  
弁護士 坂井崇徳、  
司法書士 箱石まみ、  
社会福祉士 新堀季之、  
文京区民生委員・児童委員協議会 本富士地区副会長 今本美和子、  
知的障害者相談員 山口恵子、  
当事者委員 久米佳江、  
文京区社会福祉協議会権利擁護センター係長 平石進

区委員 福祉政策課地域福祉係長 櫻井智子、  
身体障害者支援係長 福田洋司、  
知的障害者支援係長 荒井早紀、  
予防対策課精神保健係長 佐藤祐司、  
予防対策課保健指導係長 柳瀬裕貴

欠席者：

文京地域生活支援センターあかり 清水健太、  
文京区社会福祉士会事務局長 保坂勇人、  
当事者委員 杉浦幸介

事務局：

文京区社会福祉協議会次長 石樵さゆり  
文京区社会福祉協議会権利擁護センター 伊藤真由子、古賀四季穂、  
山田晶子、新井未来

傍聴4名

## 1 開会

## 2 議題

(1) ケースを通じたライフステージにおける意思決定支援について  
松下部会長より趣旨説明。

- 専門部会は長年にわたり権利擁護の制度や意思決定支援をテーマに話し合ってきた。地権や後見制度、信託など制度説明のパンフレットは揃っているが、前段階の準備の話はあまり示されていない。また、制度利用後は後見人任せ、支援者離れもあり、チームの継続が重要だが、説明が不足しているという意見もあった。  
また、委員自身も日常的に対応している対象者が様々なので、「障害者」と一言ではくくれないと常に思っていた。そこで、1つのケースに対して同じ目線で話をしていく必要があると思い、そのような趣旨で今日は一般就労している人に絞って話をしたい。同じケースを見ながら全体で話し合うことで、備えなどの具体的な話し合いができると良い。

資料第3号「自立（一般就労）を目指す事例（当日席上配布・要回収）」に基づき、説明。

### 【事例のケースに対する質疑応答】

- ケースについて質問。1ケース目の本人のこだわりとは具体的にどんなことか。
- 厨房の中では排水溝に溜まるゴミをひたすらきれいにしたり、直接手で綺麗にしてしまうことがある。注意しても改善が難しく、1つ目2つ目の会社はうまくいかなかった。今の会社でもそうした特性は出ているが、職場の方との相性がいいのか、声掛けするとその通りに止めている様子。  
又、道にゴミが落ちていたら捨てる等こだにわりが見られる。
- 初めて障害者雇用をする会社だが、配慮をしたというのは具体的にどういうことをしたのか。
- 特性についての情報共有をした。また、曖昧な指示ではなく、はっきりと伝えることや、物の置き場所の固定を促した。業務は食器洗浄が基本だが、空き時間に食堂に並ぶ調味料の補充をすることもある。補充は目安のラインを設けてもらうなど、環境整備も行った。パートの方がよく見守ってくれており、しっかり注意もしてくださるので、そうした配慮もある。
- 2ケース目について、対人関係のつまずきとは具体的にどんなことか。
- 比較的話好きな方ではあるが、趣味の世界の話の際は、一方的に話してしまい、相手の方が引いてしまったり、次から無視されてしまうといったことがある。そうしたことが続き、実習先で他の利用者たちのグループに話しかけにくい等、不安が重なって作業に影響してしまうといったことがあった。
- 1ケース目の方について、福祉サービスの利用検討中とのことだが、具体的にどんなサー

ビスを検討しているのか。

- 外出へのこだわりがあるため、外出に同行できるようなものなど話をしている。また、親亡きあとのことも考えて短期間のショートステイの話など出てきている。
- 1 ケース目の方について、お給料やお小遣いの管理は今どのようにされているか。
- 給与は親御さんが管理している。本人はあまり使わないようなので、定額のお小遣いを渡している状況。

この先どのようにしていくか、資料第 2 号を用いてマイクを回しながらみんなで書き落とししていく作業をしたい。様々な意見が出ることでいろいろ見えてくると思う。それをベースに事務局でまとめていくと色々なことが整理されていき、次々に様々な対象について考えていくというやり方をしたい。

#### 【ケース 1 について】

- サービスの利用検討を誰に相談するのか。弁護士が相談の対象になるのかというのが聞いていて思ったところ。相談を受けたとしたら、知的と言っても就労できるほどなので補助人つけるかどうかの話になってしまうかも。継続的に弁護士に相談するようなサービス、顧問的なものをやるのは少し重いように感じるので補助人の話になるかも。親亡きあとの問題になると後見的な法律相談になる。
- 特別支援学校からの就労ということだが、卒業後の相談先を悩むと思うので、支援学校の時から卒業後の相談先について実際に対面で情報提供できるといい。散財はしないようなのでしばらく財産管理は大丈夫そう。親との年齢差にもよるが、中年期辺りから親が 80 代になって実際に危機感を感じて具体的な相談先を検討すると思うので、パッと入っていったらいい。
- 独居もしくは両親が高齢といった方に民生委員がどのように関わっていけば良いかを考えた。どうすれば地域の方が誤解や偏見をもたないようにできるか。地域の方はどうしても誤解が先に走るところがあるので説明を個別にすることもある。地域で自然に生活できるような手伝いができるといい。民生委員の場合は出会った頃、知り合った頃が関わりのスタートになる。また、地域で目立ち始めた状況がスタートの方もいるので、関わりの段階は明確にない。
- サービスを利用するときに家族以外との関わりに抵抗があり、自閉症の場合は特にいつも同じことで安定しているのでなかなか次の一步が踏み出せずにいることが多い。それが長いこと継続すると新しい段階に行くときに大変、いろんな経験をする場が確保されることが大事。親の会でそうしたこともしていたが、1 人で運営していたので続かなかった。参加者が少ないとイベント自体が運営できなかつたり、課題もあるが機会がたくさんあればいいと思う。
- 金銭管理は親御さんとのことだったので、地権を使ってお金のやりくりを自分でやってみるのもありかと思った。時期は親がいるうちが安定するとも聞くので、他の機関と兼ね

合いを考えたり。お金も、使いたい物があるのであれば、給与の範囲で使っていくことも考えていけたらいいと思う。

- 親御さんが元気なうちに早めにそうした経験をもてる機会を設けたらいいのではないかと。これから必要に応じて後見人に移行されると思うが、いずれどのように生活されるかは親と相談する必要がある。
- 10年近く同じ職場で勤務していたり、能力がある方だと思った。家庭でどのくらい自分のことができていたかわからなかったのが、将来継続して関わられるのはどんな人か考えていた。計画相談に長期的に考えてもらって今の段階で何が必要か考えてもらうのがいいかなと。家族が亡くなってから動き出すと選択肢の幅が狭くなるので、家のことや自分のこと、生活のことをどのくらいできるのか、少しでも選択肢を広げられるように通所などできると良い。
- 医療的なところがどうなっているのか気になった。サービスを使う際に医療機関にかかっていないケースが結構ある。医療面が不明なこともよくあるので、継続的な医療機関との関わりも必要。
- 若いうちから変化を経験できるように、学齢期、青年期など序盤から、中年期よりも早い段階でショートステイの提案をするようにしている。
- これからサービスの利用を検討されているということなので、慣れている人を増やすという意味では拠点とのつながりも作るという。65歳になれば介護保険に移行していくので、ケアマネとつながる仲立ちをする拠点とのつながりも大事。
- この方は18歳未満の時は学校での手厚い支援があっとうまく就労に結びつき、比較的支援者も関わりやすい方という印象があった。子どもの支援関係者との18歳を境にした連携をどう事前にとれるか。
- やり方によっては獲得できる能力がある方。時間をかけていくことによって獲得できるチャンスがある。いつ頃にどんなことにチャレンジできるかを本人と決めて行けると良い。お金の使い方についても本人がどうしていきたいか、できるできないではなくて、チャンスがあることを本人が知ることが大事。福祉サービスの導入も転機で、導入によってどんなことが見込まれるのかを本人と考える。
- 福祉サービスを利用していなくても相談を受ける機会がどのように担保されてきたのかが気になった。先を見据えてその方がどのように生きていきたいかを誰かが考えながらだといふ。サービス利用してなくても相談先がリレーしていくといい。経験の積み重ねを本人に保証できると思う。
- このシートを通して、その人がどういう意思形成をしてきたのか、どういうところに関心をもってきたのかがわかり、その人の像が見えてくる。これまでに関わった人すべてにアセスメントしながら本人像を作っていくことが重要。家族、職場、第3の居場所の3点にアセスメントを行うべき。第3の居場所に関しては、地域の中で自由な関係性、体験ができると自分の意思が出てくるはず。アセスメントしながらその人の意思がどこにあるのか確認し、エンパワーしながら支援を構成していく。過去の人たちもケース検討会議に

入り、どんどん切れ目なくメンバーが増えていく形で一緒にアセスメントしていく状態が作られていくといい。

- 昨日、移動支援の研修に参加して、地域に出ていく、余暇活動の重要性が見えてきた。あえて週末ショートステイに行くとか、どこかに少し出かけることの積み重ねがいかに重要か。

## 【2 ケース目について】

- 対象者を尊厳を持った人として見るためにも、物語を知ることが大事。この方の場合、家庭環境が複雑であるとのことで、放置、放棄されたりして育ってきているかも。そうするとスキルの習得や経験がなかったと思う。こういう方の場合には最終的な意思決定をどのようにやっていけるか。経験がない分野で申し訳ない。
- 独居で生活しているので、今の自身の生活をどのように自立できるかをクリアしていくことが重要。その積み重ねで先が見えてくる方ではないか。決断できない方はたくさんいるので、成功体験があればいい。他人頼みになって、責任を周りに転嫁する方も多いので、なかなか性格は変わらないと思うが、ずっと付き合っていくことで将来を見ていく必要がある。
- 祖父母に育てられたところが気になった。孫と子どもでは育ち方が違う。家族をどういう風に考えているか。就職を希望しているというのは本人の意思なのか。周りから促されてのものなのか。どなたに心を一番開いているか、祖父母とは違う同年代の方等、本音を引き出せる誰かがいないと。本人の意思を誰が引き出してあげるかがまず大事。
- 精神の方は特に気持ちの安定が大事。話をしているうちに気持ちが整理されてきたり、考えがまとまってくることはよくあるので日常的な話し相手が大事。経験の少なさと成功体験があるというのは決断力に繋がるので大事なこと。
- 一緒にそういうこと(趣味の話など)聞いてくれる人がいるといいと思う。
- 話せる相手や帰属感が持てる場や人があっているんなことを決断する経験や知識、情報が得られるといい。
- 家族の中でどのように居心地を感じているのか。同じ趣味の集まりで自身の安定する居場所を持てたらいい。
- 本人の趣味の話というのは、アニメ、動画が主。本人と年齢が近い支援者とは話が合う様子。
- 本人が就職希望している点に関しては、どのくらい現実検討できているか、主治医が就労可能と判断しているのか、どのような部分を課題と感じているのか等をアセスメントしたい。保健師は細く長く関わりが必要。
- 将来的なことのイメージができていないと思ったのでピアカウンセリングで体験を聞いて方向性を決めるのもいい。江戸川区でそうした活動を聞き、ピアの中で主体的にテーマを決めたり話しているのを聞くと、文京区でもそうなればいいと思う。どこにも通っていなかったり、就労している方はそうした機会がないので、場の提供ができるようになれば

と思う。

- 病院に通っているのかわからないが、病院にも話を聞いてくれる人がいる。病院は比較的担当が代わらずにずっと聞いてくれるイメージがあるので変わらない相談者としていいと思う。
- 医師と連携したカウンセリングを受けることが一番早い。人を変えながら誰が合うかを模索し、本人の決断することに対して合うカウンセラーが見つかるという。
- 幼少期に両親のもとで安心した発達が難しかった方が、社会に出て何に困っているかもわからず相談に来ることは多い。「決断してこなかった本人が悪い」と、その方のせいに行われている印象を受ける。経験を持てなかったのは幼少期の複雑な環境があったため、そのことを支援者が理解する必要がある。過去にどのような事情を抱えて生きてこれたのかを周りが理解して支援に当たることが重要。
- 就職したいかどうか、本人の意思かどうか気になった。幼少期からどのようなチャンスがあったのか、今それを取り返していけるか、見ていくという。文京区でも伴走型支援が始まっている。伴走者がいたかないかで変わってくる。
- 20代ならまだ過去のことを追いかける。養護施設と連携がとれるはず。児相の情報は制度上、情報開示できないので、制度的な面を訴えていかななくてはいけない。それぞれのライフステージにジェノグラムが完成できるといい。
- 虐待を受けていると人間関係の形成は困難、幼児期や学齢期、青年期を反芻していきながら現在に戻っていく必要があるケース。核となる相談支援機関があるので、この人に対する伴走型支援のチームを再構成し広げていける。
- この内容は親会で報告する。3月に専門部会の合同発表でも報告することになる。

## (2) その他

- (配布しているチラシに関して)東京都福祉保健局の事業で、障害の社会モデル実践講座の案内。チラシは1月実施分までだが、2月にも実施予定。後で社協にファイルを送る。キャラバンはいろんな地区でやっている。学齢期の方の母親を中心にそうした活動を進めている。
- 社協で地域福祉活動計画のパブリックコメントをやっている。地域の様々な生活課題の解決に向けて4年間でどのような取り組みをしていくか。よければご意見いただきたい。ホームページからも見られる。1月4日木曜日まで。
- 次回の権利擁護専門部会は2月予定。

以上